

実践5 「ティラノサウルスを作りたい」

概要 5歳児の、「本物の大きさの恐竜を作りたい！」思いから始まった恐竜作り。友達と情報を集め対話を重ね、身近な素材や材料など身近な環境とも対話しながら、作り上げていく過程に注目した事例です。

ポイント 好きな恐竜への思いと、今までの経験をフルに生かし、環境を使いこなし、素材や材料を見つけ方法を考え出し、試行錯誤しながら実現していく姿に「科学する心」の育ちを読み取ることができます。そして、子どもたちが、いかに今まで自ら環境と関わり心動かしてきたか、保育者たちが、いかに子どもの興味・関心に寄り添い続けてきたのかも読み取ることができます。

(特非)東村山子育て支援ネットワークすずめ つばさ保育園

5歳児

場面1：恐竜作りの始まり



- ・6月上旬、乳児期から恐竜に興味があり、恐竜の動きを真似たごっこ遊びや、ブロックで恐竜の形を作ることが多い子どもたち5名は、遊びの会話も恐竜関連が中心で、自分の知っている知識を担任に話すことも多い。Aさんが、「**ティラノサウルスって大きいんだよ！ビルぐらいあるんだよ。だって15mあるんだもん**」の言葉が契機となり、自分たちで作ることになった。保育者は、メジャーの見方を知らせた。
- ・子どもたちの考えは、ティラノサウルスの長さを段ボールでつなげていくというもの。メジャーの使い方などを知った子どもたちが、腕を伸ばした長さがほぼ1メートルだった。「**おー、これが1メートルだ！**」とみんなで腕を伸ばして感覚をつかんでいた。
- ・**体で長さを知ることができる経験は面白かったようだ。そして、役割分担しながら、自分たちで測り終える。実際に並べると「やっぱりティラノサウルスって大きいんだね」と改めて大きさを感じたようだ。**
- ・**図鑑を見ながら、顔を描き始めた。「もっと大きいよ」「歯って尖ってるよね」「目は小さいよ」など、今までの自分の情報をお互いに話し合いながら、一人一人好きなパーツがあるようで、それぞれこだわりながら描いていた。**

★保育室に恐竜図鑑を置いておき、いつでも見たり調べたりできるようにしている。
★様々な素材で制作を楽しめるように設定しておく（段ボール、ガムテープ、セロハンテープ、絵の具なども置いておく）
○子どもたちの気づきを他児にも伝えて、みんなが気持ちを共有できるように心がける。
○子どもたちの様子を見守り、集中して取り組めるような場所を保障する。

場面2：恐竜に色を付けよう



- ・翌日、顔の形ができつつある時に、「**ティラノサウルスは緑とか茶色とかいろんな色があるんだよ」「青と黄色を混ぜてから、黒を足すといいかも」「じゃあ、絵の具で塗ろう！**」とのアイデアが出た。
- ・そこで、絵の具を準備すると、自分たちで色を混ぜながら納得する色になるまで繰り返し、色を足していく。**それぞれの色のイメージは多少異なるものの、お互いに納得しているので「その色、本物みたいでいいね！」とお互いを認めながらの作業が続く。**この頃から他の友達も興味をもち、周りで見ていることが増えてきた。



体はどうやって作ればいいかな？

- ・顔ができ上がったことで、今度は体を作り始めることにした。「**15mに測った段ボールを全部使えば本物の恐竜と同じ大きさになる！**」という考えで、**段ボールを組み合わせて体の形を作り、鉛筆で下書き**をする。この作業は担任よりも子どもたちの方が恐竜の形に詳しくだったので、殆ど手を出さずに見守り、子どもが下書きの線のはさみで切れない部分だけ担任が切るようにした。
- ・色はどの色を混ぜていけばいいか、少しずつ分かってきたようだ。初めは筆で塗っていたが「**手で塗った方が気持ちいい！**」と感触遊びの延長で楽しんでいく。絵の具で楽しそうに塗る姿に興味をもった仲間が輪に加わる。塗りながら「**恐竜の足ってこんなに大きい？」「これじゃあ潰されちゃう！」「本物の恐竜みたい！どうやってこの色作ったの？」**と本物さながらの恐竜の迫力に、関心が集まってきた。



★いろいろな色を試せるように絵の具の色の種類を多めに準備し、自分たちで試行錯誤が十分できるようにする。
○思い切り活動が行なえるように場の確保をする。

場面3：ティラノサウルス完成！

- ・1週間かけて恐竜が完成。保育室に飾ってみると今にも動き出しそう。自分たちで作上げた本物に近い大きさの恐竜が完成したところで、定規で測ってみる。「**先生100よりもずっと大きい！ よっしゃー！ ティラノサウルスできた！**」

場面4：羽毛がない！

- ・翌日、Aさんは、特に恐竜に対するこだわりが強く、**作る過程で「そんな首は短くない！」「もっと手は小さいの」と**友達とぶつかることが多い。一緒に作りたい気持ちは強いが、自分のこだわりを貫き通したい気持ちが上回り、友達との作業が続かず、自分が納得している部分中心の参加だった。保育者は、Aさんが、参加している時には子ども同士の会話の輪に加わり、お互いの思いや気づきを肯定的に感じ取れるよう関わりを丁寧にしてきた。
- ・完成して数日経った時に、Aさんが「先生。恐竜って羽毛があるんだよ。でも、このティラノサウルスは羽毛がない！」と言ってきた。「羽毛」について、一緒に図鑑で調べてみると、恐竜は皮膚がツルツルではなく、羽毛が生えている事が分かった。Aさんの気づきをクラスに伝えることで情報を共有し「**羽毛付けなきゃだね」「でも羽毛って何色？」**と対話が始まった。そこから新たな展開へとつながればと思い、クラスで映像を見て恐竜について調べることになった。
- ・「**毛むくじゃらなんだね」「恐竜の鳴き声って怖い！吠えてみたい」「赤とか黄色、青の毛！ティラノサウルスっておしゃれ！」「全部茶色だと思ってた」**羽毛をどうやって表現するのか見ていると、AさんとKさんが、友達が遊びで使っていた羊毛に着目した。「**これも羊の毛で恐竜の羽毛に似ているから**」とのことだった。
- ・色を選び、その想いをクラスの仲間に伝えると「**それいいねー**」と共感された。早速、数名で羽毛付けが始まった。付けると、より本物らしさが出てきた。「**本当に動き出しそう！**」と友達から言われ、自分のアイデアが受け入れられた喜びをAさんは、感じていたようだ。このことがきっかけとなり、友達の意見にも耳を傾けることが増えてきた。



場面5：クラスで活動を共有して 6月上旬～

- ・今年度は今までのような賑やかな新年度の始まりではなく、感染症対策にどう対応していけば良いかを考えつつの保育の中で始まったティラノサウルス作り。作られていく過程について、休んでいた子どもたちにも伝わり、共有することで興味・関心につながり、これからの活動を共に楽しんでもらいたい思いが保育者にはあった。
- ・そこで保育室に写真やコメントをつけたドキュメンテーションを貼り、見て分かるように工夫した。久しぶりに登園した子どもは、保育室の大きな恐竜に驚くと共に、**写真や恐竜を見ながら「こうやって作ったんだ！」と友達同士でお喋りを楽しむ姿**が見られた。また「**これはどうやって作ったの？」と気になることを聞く姿**なども見られ、子どもたち同士のコミュニケーションの場となっていた。
- ・その後、それぞれの**興味が枝分かれ**し、恐竜が生きていた時代に興味をもつ子どもたちの恐竜の世界作り、紙粘土でのフィギュア作りなど、試行錯誤しながら友達と協同して遊ぶ姿につながった。さらに、恐竜博物館ごっこへと広がり、博物館には、保護者も招待した。さらに、製作活動は深まり、影絵による映画館作りにも展開した。子どもたちは、新たな気づきや不思議と出会い、探究心を発揮して友達と物作りを楽しんだ。

○恐竜ができてくる過程を保護者にも写真で伝えて、一緒にワクワクを共有してもらおう。



ドキュメンテーション

【考察】・恐竜が好きな数人の子どもたちが、図鑑や映像の世界でしか見られない恐竜を、「本物と同じ大きさで作りたい！」という思いから始まった恐竜の活動。“大好きな恐竜ってどれだけ大きいんだろう？”“手はどんな形かな？”“体の色は？”“恐竜の皮膚ってどうなっているの？”作っていく過程で、より関心を深めていき、友達と話し合いながら形にしていく楽しさ、面白さを感じていた。そして、その生き生きした姿に刺激を受け、少しずつ仲間が加わっていった。恐竜作りから、それぞれの関心ごとが枝分かれし、より活動の広がりを見ることができた。乳児期から好きだった恐竜を5歳児になっても、その気持ちは変わらず、今まで以上に、好きな思いと興味の深まりが見られた。

・やってみたいこと（興味）を友達同士でアイデアを出し合いながら（対話）目的に向かって、実現させていく過程に「科学する心」は育まれていくことが分かった。そして、様々な素材と向き合い、自分自身で経験したからこそ、その素材の特徴を見つけ、次の目標の実現に向けてやってみよう！の意欲を高めて自分たちで考えながら取り組む姿が見られた。そして、新たな関心事に向けて、自分たちの力で工夫しながら！試行錯誤しながら！前に進んでいくことも「科学する心」が育まれていく上で大切なことだと考える。